

第3回福知山市行政改革推進委員会 議事概要

日時:令和7年10月21日(火)

午前10時15分から

場所:市民交流プラザ4-1

■ 出席者

【委員(敬称略)】

井上 拓、井上 直樹、浦尾 たか子、岡 恵、細見 祐介、村尾 慎哉

※井上拓委員、村尾委員はオンライン参加

【市】

市長公室長、総務部長、経営戦略課長、財政課長、職員課長、資産活用課長、文化・スポーツ振興室次長、農業振興課長、都市・交通課長

1 報告事項

(1)行政改革大綱2022—2026進捗状況について

【資料1-1、1-2】について説明

委員

基本方針2については、第2回の行政改革推進委員会で報告があったため、今回は割愛している。報告いただいた内容について、質問があれば発言をお願いしたい。

委員

資料1-1の15番「部長マネジメントの機能化と管理監督職のマネジメント力の向上」について、指標と評価をどのように読めばよいのか教えていただきたい。指標1が達成、指標2が未達成と読み取れるが、評価欄にはA評価と記載されている。指標と評価は連動していないのか。あくまで評価は進捗評価ではなく、進捗が概ね良好であればA評価としているのか。

市

資料の記載に誤りがあった。再度、確認を行いたい。

委員

資料1-1の15番「部長マネジメントの機能化と管理監督職のマネジメント力の向上」については、評価について再度精査することであった。実績値と目標値に乖離があるとの指摘であったため、事務局で確認をお願いしたい。

また、11番「部課横断的な事業推進チーム・自主研究チームの形成および活用」については、「【指標2】自主研究チームの成果講評件数」は成果発表も積極的に進めていると思う。「【指標1】事業推進チームの仕組みの構築」については、現在、仕組みの検討段階であるが、課題解決に至るまでのプロセスを含めた仕組みを構築しつつあると理解している。検討段階における達成度は不明であるが、評価についてはC評価ではなくB評価でも良いのではないか。検討中の段階の評価は分かりにくく、見えにくいと感じた。

委員

11番「部課横断的な事業推進チーム・自主研究チームの形成および活用」について、他の自治体への良い波及効果があるのであれば、C評価というのはもったいないと感じた。

委員

この件については、今後さらに進捗と実績を積み上げ、目標に向かって取り組んでいただきたい。

**(2)外郭団体二次評価について
【資料 2-1、2-2、2-3、2-4】について説明**

市

昨年度は、行政改革推進委員の皆様に外郭団体の三次評価でご協力をいただき、様々な観点から意見や助言を頂戴したところである。意見等に対する対応方針については、今年度第1回目の行政改革推進委員会において報告を行った。

今回は、その対応方針を踏まえ、外郭団体による一次評価および市所管課による二次評価を実施したため、報告するものである。

この後、議事も控えているため、限られた時間ではあるが、評価に関する質問等があればお願いしたい。

委員

外郭団体4団体から報告をいただいた。委員の皆様から質問等があればお願いしたい。これは令和6年度の取組に対する評価を担当課が実施し、令和7年度の指標として反映している内容である。

委員

2点伺いたい。1つ目は、1ページ目の「関与の方向性(外郭団体への関与に係る指針)」についてである。継続と存続の違いはどのような意味の差があるのか。あるいは、課によって書き方が異なっているのかを確認したい。

2つ目は、成果指標の設定についてである。各団体で設定されているが、わかりづらい箇所がある。「(公社)福知山市文化協会」では、取組内容1の成果指標として「各事業の参加者数(令和4年度を100として計算)の増加」とある。令和4年度の目標値を100%としているが、実績値は1万2千となっている。これは100%対1万2千%という意味なのか、それとも基準年(令和4年度)の実績が1万2千人という意味なのか。また、令和5年度に105%であったのであれば、1万2千人の105%、すなわち1万2,600人程度を指しているのか。

また、「(一財)福知山市スポーツ協会」では、取組内容1の成果指標「正味財産増減計算書による数値化」について、目標値は「数値化する」、実績は「数値化した」となっている。これは指標として妥当なのか。数値化したうえで何を評価するのかが見えにくい。

さらに、「(有)やくの農業振興団」では、3ページ目の成果指標「蕎麦作付受託面積及び蕎麦加工品販売額」について、令和6年度の「作付受託面積」は1,200aを目標としているが、実績は290aとなっている。前年度の1,030aと比較して大幅に減少しているように見えるが、加工品の売上額は前年より増加している。これは誤記なのか、実際に作付面積が減少した中で売上を伸ばしたのか伺いたい。

委員

すぐに回答が難しい内容かと思う。行政改革推進委員の中には、市の外郭団体への関与指針の策定に携わった方や、これまでの評価に関わっている方もある。

先ほど委員からあったとおり、団体ごとの「関与の方向性」には微妙な違いがある。市が外郭団体へどのように関わっていくかという立場によって、「継続」であっても条件付きであることや、「存続」としている場合は、継続よりも重い意味合いを持つ印象として捉えている。また、市の関与を徐々に縮小していく方向を目指している団体もあるため、団体によって「関与の方向性」については、ニュアンスが異なることを補足しておく。

また、今回は報告事項であるため、内容を詳細に検討すると多くの指摘が生じる可能性がある。先ほどの委員からの指摘を含め、他の委員の皆様にも様々なご意見があると思うが、議事の進行上、後日、各委員から事務局へメール又は電話で質問や意見をいただきたい。

それでは、次の報告事項に移る。

(3) 使用料等の見直しに係る検討結果について

【資料3】について説明

委員

2ページ目の「見直すことにした施設等の改定内容」について、高校生以上は大人として扱うのか教えていただきたい。子育て世代が文化施設で学ぶことは、市として重要なことであると考える。18歳未満の子どもの料金を値上げすることについては疑問がある。値上げは成人の入場料のみで良いのではないか。どのような趣旨で子ども料金の値上げを行ったのか伺いたい。

市

佐藤太清記念美術館と福知山城天守閣については、小中学生の料金は据え置きとしている。高校生以上は大人とみなし、料金を改定した。動物園及び植物園については、これまで4歳以上中学生まで有料としていたが、未就学児は無料とする一方で、小中学生は10円の値上げとした。動物園及び植物園については、未就学児を無料することで一定の配慮を行った。

委員

もともと受益者負担の適正化という観点から見直しを進めているのであれば、未成年と成人を区別して対応するほうが良いと考える。引き続き検討をお願いしたい。

委員

2ページの最後にある「3 見直しによる使用料等増額見込額」の内訳について、大まかな額で構わないが、市バスと放課後児童クラブで、全体の半分以上を占めているという理解で良いか。

市

おおよその額であるが、Dの放課後児童クラブが900万円程度、市バスが100万円弱、Cの動物園・植物園等で100万円弱という内訳である。

委員

使用料の見直しについては、第1回目の行政改革推進委員会の中で委員から意見をいただき、受益者負担の適正化の観点から進めてきたものである。今回、具体的に議会定例会にも提案し、実施に向けた方向性が示されたと思う。成人の扱いを18歳とする点については委

員の指摘のとおりである。利用者の増加と受益者負担のバランスの接点を検討いただきたい。受益者負担を考える第一歩となった点は大きいと感じている。

2 議事

(1) 施策(二次)レビューの総括について

【資料4-1、4-2、4-3、4-4】について説明

委員

8月に実施された施策レビューの総括について、資料を取りまとめていただいた。本日は本資料を基に、来年度は実施がないものの、再来年度以降の取組に向けて意見をいただきたい。

委員

2日間の施策レビューに参加した。2日目は施策改善推進委員として、1日目は午後から傍聴として参加した。事務局および担当課の皆様の準備や当日の対応に感謝申し上げる。

冒頭の説明にあったとおり、実施時間は140分であったが、施策改善推進委員としての参加や傍聴を通じて、時間は適切であったと感じた。熟議の時間も十分にあり、間延びもなく、コーディネーターの進行も円滑で納得感のある時間であった。今後の参考にしていただければと思う。

資料4-4「令和7年度施策レビュー(二次レビュー)改善提案等への対応方針」において、改善シートの「課題が明確になっているか」について、施策改善市民パートナーは施策改善推進委員に比べて「どちらとも言えない」との回答が多い。これは、説明のわかりやすさや難しさが、課題の明確化に影響しているのではないかと感じた。今後、同様のレビューを実施する場合には、わかりやすい説明をどのようにすれば市民に伝わるかを継続的な課題として捉えていただきたい。

過去のレビューでも、説明がうまくできた担当課と、苦戦した担当課があった。違いは事前準備だけでなく、プレゼンの仕方や補足資料の有無によるものを感じている。継続して実施するのであれば、わかりやすいプレゼンを前提に、事前準備の段取りにその要素を組み込むと良いと思う。

市

わかりやすい説明は施策レビュー(二次レビュー)に限らず、あらゆる場面で重要である。令和4年度から実施を重ねる中で、行革委員の皆様に磨きをかけていただきながら改善を進めってきた。引き続き、わかりやすい説明に努めていきたい。

委員

資料4-4「令和7年度施策レビュー(二次レビュー)改善提案等への対応方針」の「3 上記1、2に対する担当部の対応方針」について質問する。

例えば「施策名:4-1-1地域総ぐるみの教育の場づくりの推進」の対応方針では、文末に「努めていきたい」「周知していく」「支援員の確保を行う」「心に残る式典になるように取り組む」などの表現がある。これらは実施するのか、検討段階なのか、表現に強弱があると感じる。この判断は、次期総合計画や事務事業に位置付けられているか否かで、実施か検討中かで表現を変えていると判断して良いのか。

市

次期総合計画の策定に向けた取組の中で、実施状況の把握をしたい。今回は、施策レビュー(二次レビュー)を受けて、担当課が改善に向けて取り組もうとしている段階であることを理解いただきたい。

委員

施策レビュー(二次レビュー)を受けて、担当課がどのように進めていくのかが重要である。委員からの意見にもあったとおり、見える化につなげていくことが大切であると理解した。

委員

施策レビュー(二次レビュー)の振り返りとして、事前打合せ時にも伝えていたが、事業と施策の区分について触れたい。資料4－2「令和7年度施策レビューに関するアンケート結果(市民パートナー)」の2ページ「3 施策レビューの1コマごとの意見整理・議論に係る時間配分はいかがでしたか?」「その他」欄には「休憩前後の区分(事業説明／施策説明)がわかりにくかった」との意見がある。また、3ページ「4 施策レビューの1日の流れはいかがでしたか?」「その他」欄には「話が繰り返しで要領を得ず無駄に感じた」との意見があった。

我々は施策と事業の関係性を理解しているが、市民パートナーは分かりづらいと感じている。今回は、事業説明の後に休憩を挟み、施策説明を行う流れであったが、施策と事業の区別が難しいため、一体的に説明を進めた方が分かりやすいと感じた。

委員

我々はこれまでの資料等で、施策があり、その下に事業があると理解しているが、市民パートナーの視点は異なる。委員の意見にもあったとおり、施策と事業を体系的に説明する方法を検討してほしい。

委員

施策レビュー(二次レビュー)に複数回参加しているが、今回の時間設定はちょうど良いと感じた。一方で、市民パートナーのアンケート結果にもあるように、市が使う文言と市民の捉え方にずれが見られた。定義づけに時間を要し、議論が進まない場面もあった。固有名詞などの定義を明確にしておかないと、あいまいな認識の違いで議論が滞るのはもったいないと感じた。

また、市民目線での説明は毎年の課題である。施策レビューに参加した担当課は学びがあるが、参加していない担当課は学ぶ機会が少ない。説明の仕方や質問・意見のやりとりを共有し、今後のレビューに活かす仕組みがあると良いと感じた。

市

文言や説明の定義については、説明に時間を要する場面が多く、論点整理時にも指摘があつたため、非常に重要であると感じている。

共有については、過年度の実施内容やポイントを次回参加する担当課に共有しているが、共有範囲が限定的である。共有範囲をどうしていくかといったことも検討していきたい。

委員

市民の方々の熱心な発言から学ぶことが多かった。わかりやすい言葉への言い換えや図解資料などがあると、より理解が深まると思った。

委員

資料4－1「令和7年度施策レビュー(二次レビュー)について」にもまとめられているように、市民パートナーから「参加して良かった」との声もあった。参加された行政改革推進委員も安心されたことと思う。

委員からの指摘を踏まえ、要望等があれば事務局へ報告をお願いする。会議内容は以上である。施策レビュー、行政改革大綱、外郭団体の取組については、今後も継続して進めていく必要がある。意見がなければ、事務局に進行を戻す。

■

補足を行う。1報告事項「(1)行政改革大綱 2022—2026 進捗状況」について、評価は指標が複数ある場合、進捗の悪い方を考慮してA・B・C評価を付している。その観点から、取組項目11番「部課横断的な事業推進チーム・自主研究チームの形成および活用」は進捗率が50%に到達していないため、C評価としている。

また、取組項目15番「部長マネジメントの機能化と管理監督職のマネジメント力の向上」については、事務局の記載誤りのため、A評価からB評価へ修正する。

さらに、1報告事項「(2)外郭団体の二次評価について」については、委員長からも提案があったが、助言等があれば今月中を目途に事務局へ意見をいただきたい。